

# 「他人ごと」を「自分ごと」に変える保健の授業

保健体育科 教諭 平岡 拓己(ひらおか たくみ) 先生

2024年12月6日(金)本校を会場に熊本県高等学校体育研究会が行われた。その一環として、2限目には本校初任の平岡拓己先生による保健の研究授業がセミナーハウスにて行われた。県内高校や教育委員会、県立教育センターから約100名の保健体育の先生方が見守る中、性感染症予防に関する課題を「他人ごと」ではなく「自分ごと」として生徒に認識させ、考えさせる授業が展開され、参観者からの大きな拍手で終わった。授業後の平岡先生にインタビューした。



Google フォームでアンケートを取り、事前アンケートとどのように生徒の意識が変容しか確認し再度まとめ。

**【日時】**

令和6年12月6日(金)  
第2校時

**【クラス】**

普通科1年4組

**【本時の目標】**

性感染症が他の感染症と異なる部分や予防のためには社会的な対策とともに、個人の取り組みが必要なことを理解できるようになる。

本時の目標を提示した後、性感染症についての事前アンケート結果や熊本県の現状を示すグラフを提示。

性感染症の種類や感染経路・症状を説明。

お互いのピーカーの水を混ぜ合わせ交換することによって、粘膜接触による感染拡大を模式的に実験。

実験結果から分かること・考えたことをグループで共有、その後クラスで共有。



1.挨拶・前時の復習 2.本時の目標の提示 3.現状理解及び予測 4.性感染症の理解 5.性感染症の広がり(実験) 6.考えたことを共有 7.まとめ(1) 8.ディスカッション 9.まとめ(2)



感染症予防の三原則について、生物とのクロスカリキュラム授業の結果を示し、振り返り。



性感染症の現状を表すグラフから気づいたこと・今後の予測をグループで共有することで背景知識を高める。



理科実習教師の境先生から試薬の使い方、注意点を説明。



一つのピーカーにしか入っていなかった透明の試薬がどれだけ広がったかを確認する。



性感染症の予防についてまとめ。及びディスカッションの視点の提示。



・「実験結果の感想」・「性感染症予防の取組」・「人権的視点で気を付けること」の3点でディスカッション。

## 「自分ごと」として考えさせる

「保健という科目は人の実生活と直接関係がある科目なんです。だからこそ、生徒に考えさせる授業をやりたいと思いました。」今回の授業について伺ったときに平岡先生はこう語り始めた。「アンケートの結果、性感染症について、生徒は知識としては持っているんですが、それが『自分ごと』にはなっていないということが分かったんです。ですから、それをどう『自分ごと』として考えさせるか。このような視点で指導案を作っていました。」

今回の授業では、様々な場面で生徒に考えさせ、対話させる機会が設定されていた。「3. 現状理解」の場面では、グラフを示し、それから見えることを考えさせたり、その後どう変化するかを予測させたりした。

「5. 実験」の後には、実験結果から分かることを考察する場面があった。「7. まとめ」の後にも3つの視点によるディスカッションの場面を設定し、生徒の中で総括させるこ

とができた。生徒の討論中には平岡先生はそれぞれのグループを回り、「この意見いいね。」と声掛けをしていく。このような声掛けにより、全体で共有する際には挙手して発表する生徒が多くいた。これは平岡先生の日頃の生徒への声掛け、価値づけの成果であろう。

## 理科とのクロスカリキュラム

理科の実験を入れた理由を問うと、「生徒に『自分ごと』として考えさせるためには、実際に目で見て、体験させる必要があると考えました。感染症の学習は「生物」と親和性が高いと思います。ですから、生物の池田唯人先生、実習教師の境あゆみ先生に相談しながら、感染症を扱うときには生物とクロスカリキュラムをお願いしています。実はこれは初任研指導教官の古閑健士先生が数年前に当時の生物の先生と始められたことで、今回多くの助言をいただきました。」

このことについて古閑健士先生は、「若手教員たちが引き継いでくれて

いることがうれしい。」と語った。

## 多くの先生方のサポートを得て

指導案はかなりの完成度を感じました。これまでどのような準備をしてきたんですかと問うと、「話があったのは7月で、研究会の研修会で保健の授業のありかたを学び、その時指導案のフォーマットをいただきました。8月下旬から準備を始めましたが、自分の指導案ができたのが11月で、体育科の先生方、管理職の先生方に見てもらおうと同時に、体育保健課の渡邊指導主事にもご指導いただきました。2日前の12月4日の他のクラスの授業の際には、渡邊指導主事、八代中高の岩崎指導教諭、そして古閑健士先生にもご参観いただき、多くの指導助言を受けて、指導案を大きく変更し、当日を迎えました。授業後の合評会では多くの先生方から質問や助言、励ましのお言葉をいただきました。多くの先生方に応援していただいていることを実感し、今、やってよかったと感じています。」